

2016-17年度ライオン誌日本語版委員会 第2回会議 報告書

日 時：2016年9月8日(木) 13:30～16:10

場 所：一般社団法人 日本ライオンズ 事務所

出席者：委員長	石井 博之 (334複合地区／三重県・津中央ライオンズクラブ)
編集長	佐藤 義則 (332複合地区／宮城県・蔵王ライオンズクラブ)
委員	久津間康允 (330複合地区／神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ)
委員	佐々木忠康 (331複合地区／北海道・小樽ライオンズクラブ)
委員	渡邊 信也 (333複合地区／新潟県・亀田ライオンズクラブ)
委員	中村 房雄 (335複合地区／大阪府・泉大津ライオンズクラブ)
委員	矢野 敏明 (336複合地区／島根県・松江葵ライオンズクラブ)
委員	小柴 登司 (337複合地区／沖縄県・浦添ウエスト ライオンズクラブ)
ITアドバイザー	荘 英 隆 (東京恵比寿ライオンズクラブ)



石井委員長の開会あいさつに続いて、委員長から今年度の会議の持ち方について提案があり、各委員の意見を聞いた上で基本的な方向性を決定した。その後、改めて各委員が自己紹介を兼ねたスピーチを順番に行った後、石井委員長、佐藤編集長の進行で議事に入った。

【議事】

1. ライオン誌日本語版事務所の運営 (別紙-月次決算報告)

5月度の収支計算書を基に会計担当者から説明があった。今月は年間契約有料誌の切り替え時期のため雑収入予算の80%以上に相当する約124万円の収入があり、月次では2,051,135円の収支差額金が生じた。

●国際協会からの上半期補助金33,819,240円の入金があったことが報告された。

2. 2016-17年度ライオン誌日本語版編集長方針(別紙-編集長方針)

佐藤編集長から提出された2016-17年度の編集長方針案が説明され、検討の結果、一部文言の修正の後、これを承認した。同方針は本誌10月号「編集室」に掲載する。

3. 2016年9月号(8月20日見本／95,200部発行)出来

主要記事を紹介し、委員から意見を求めた。今月号の特集は「大人の社会科見学・盲導犬編」、「国際理事だより」は安井克之国際理事、「編集室」は佐々木忠康委員の担当だった。

一般社団法人日本ライオンズの創立に伴い、これまで本誌に掲載していた発行所や原稿送付先をどのように表記するか理事会で検討して頂いた結果、「一般社団法人日本ライオンズ・ライオン誌日本語版委員会」とすることが決まったため、この号から奥付と第三種郵便物の法定文字をそのように変更した。

4. 2016年10月号記事内容の確認

事前に配布された10月号校正を基に、記事の内容を検討した。特集「ライオンズクラブ統計」、「国際理事だより：佐藤宜之国際理事」、「編集室：佐藤義則編集長」。名古屋市で開催されるLCIF理事長セミナーは、山田理事長の熊本地震被災地視察の報告と共に4ページの記

事として掲載した。また、FWTからの要請により、10月21日に開催されるFWT全日本女性フォーラムの告知のため、表2スペースを提供することを承認した。

5. 2016年11月号台割(案)と主要記事予定

11月号台割案と今年度主要記事予定が提出された。

11月号は特集「フードバンク」「国際理事だより：中村泰久国際理事」、「編集室：久津間康允委員」。ボブ・コーリュー国際会長公式訪問に関わる一連の行事を取材し、この号に掲載する。

12月号以降の特集について、各委員が持ち寄った企画案の提案理由と内容を発表してもらった上で、意見を交換し、当面3月号までの企画案を決定した。次号12月号は「傾聴ボランティア」（佐々木委員提案）で、高齢者に寄り添う新たなアクティビティの一つとして、その意義やノウハウと共に、ライオンズの活動事例やそれに類したアクティビティを紹介する。その他、「アラート」（中村委員提案）、「糖尿病の実態」（佐藤編集長提案）、「子どもの貧困」（久津間委員提案）の3案を採用し、4月号以降の特集企画については、更に検討を重ねる。

6. ライオン誌デジタル化

- 前回会議で本部の新しいデジタル版に合わせた上で、公開ページと会員ページに分けたサンプル版が提示され、微調整を行った上でウェブマガジンに代えてデジタル版として更新することを決定した。その後、念のため現在のシステムを構築してもらった業者に現行システムの検証をしてもらったところ、ウェブマガジンで採用したシステム(Xoops)は既に開発を終了しており、セキュリティー面で使用に適さないことが分かった。そこで本部がデジタル版のプラットフォームとして推奨しているWordpressで構築し直し、現在のコンテンツを移行した場合の費用について見積もりを取った。その内容と、今後の方向性を検討した結果、システムの変更及びその費用については基本的に承認するが、レイアウト変更やコンテンツの追加方法などサポート体制についても考慮した上で、次回以降の会議で更に検討することになった。なお、10月25～26日にデジタル版についての公式版編集者会議が開かれるため、その会議の様子も見て、最終的にデジタル版の更新を進めることとする。
- 昨年度から作業を行っているバックナンバーのデジタルアーカイブ化について、実装された検索プログラムを事前に各委員が検証した結果を基に意見交換した。まだいくつか改善すべき点があるため、それらを整えた上で公開することとする。
- 佐藤国際理事から提案があり、前年度委員会で検討していたデジタル化アンケートについて、アンケート項目案が提示された。基本的にはオンライン報告システムServannAのアンケート機能を使って実施するが、精度を上げるためには各クラブの例会で時間を取って回答を作って頂く必要があると石井委員長から指摘があり、その方策と内容等について、デジタル化小委員会で詳細を話し合い、次回会議で報告する。

7. その他

- 各地区・複合地区、及び日本ライオンズの会費請求について、ServannAを管理しているライオン誌で業務を受け、具体的な作業を行ってきたが、それぞれの地区で請求内容や請求回数、家族会員や支部会員の扱いが異なっており、事務が非常に煩雑となっている。現在は、ServannA集計の会員数を基にライオン誌のスタッフが手作業で行っているが、これを簡素化し、更に地区やクラブが請求内容を把握しやすいようServannA上

に、プログラムが組めないか検討していることが報告された。その結果、請求書算定用の会員数を自動算出し、更に請求項目を各地区が選択・追加出来るシステムの構築について、ITアドバイザーを交えシステム会社と交渉することを承認した。

- ライオン誌サポーター・アンケートについて、佐藤編集長から、今回のアンケートは前年度サポーター最後のアンケートで、ライオン誌に対してさまざまな意見、提案が出ているため、各委員がその内容を精査し、今年度の編集に役立てて頂きたいと要請があった。
- 新年度サポーターの名簿が提出された。これに委員推薦のサポーターと前年度委員を追加し、1年間、ライオン誌のモニター役と情報提供をお願いします。
- 10月25日から26日にドイツ・ベルリンにおいて公式版の編集者会議が開催される。今回は本部のデジタル版のプレゼンと、各公式版がスムーズにデジタル版を構築するためのサポートを目的としている。費用は国際協会負担となり、日本語版からも出席者を派遣する。
- ライオン誌日本語版の編集・発行に対する最終的な責任は委員長、編集長が負うが、取材のための出張申請等、日常業務に関しては部門責任者を設けて頂きたいと、一般社団法人理事会に申し入れをして頂くよう、同理事会構成員でもある佐々木委員と矢野委員にお願いした。

閉会あいさつ 石井博之委員長

【次回以降委員会開催予定】

10月4日(火)	13:30~16:30	第3回会議	日本ライオンズ事務所
11月2日(水)	13:30~16:30	第4回会議	日本ライオンズ事務所
12月9日(金)	13:30~16:30	第5回会議	日本ライオンズ事務所

2016-17年度『ライオン誌』日本語版編集長方針

今年度、編集長に選任されました。昨年度は日本ライオンズ連絡事務所とライオン誌日本語版事務所の統合に関する諸手続きや各会則地域フォーラムの取材、ライオン誌デジタル化の準備と大変めまぐるしい1年でした。今年度は引き続き、2018年1月からのデジタル版への移行と併せて印刷版の発行について検討し、その準備を進めてまいります。ボブ・コーリユー国際会長のテーマの通り、「次なる山を目指して」大きな変革を迫られております。経験豊かな委員と共に、きっと期待以上の対応が出来ると確信しております。

以下に今期の編集方針を明示します。

- 1 国際協会創設100周年の節目に際し、100周年記念奉仕チャレンジ及び100周年記念コミュニティー・レガシー・プロジェクトへの各クラブの参加が推奨されています。その成果を誌面で紹介していきます。クラブにはライオン誌デジタル版（www.thelion-mag.jp）のアクティビティ投稿を通じた投稿を呼び掛け、100周年に向けたクラブの活動の情報を収集します。
- 2 「ライオンズ・ニュース・カセット」欄の更なる充実を図ります。国内外の有益な情報を収集し、本欄に掲載しきれないものはライオン誌デジタル版のサイト内に掲載します。
- 3 昨年度設置したデジタル化小委員会を継続し、会員を対象としたアンケートで意見を集めた上で、今年度中にデジタル化への対応を完了させます。
- 4 ライオン誌デジタル版のウェブサイトへの情報集積を進めます。昨年度は1958年創刊号以降のバックナンバーのデジタル化を進め、これを公開しました。ライオン誌をオンラインで読むだけでなく、会員の求める情報を発信出来るように整備していきます。

ライオンズ会員の情報源としての重責を果たすべく、誌面はもちろんオンラインでの情報発信も積極的に推進してまいります。今後ともライオン誌をよろしく願っています。

2016-17年度編集長 佐藤義則